



合意書

国際セーフコミュニティ認証センター 及び 鹿児島市

は

市全域、全年齢の市民及び全ての環境・状況を対象に、傷害予防を通じた安全なまちづくりに継続して取り組むことに合意します。
また、この取組みに関わる者として、安全なまちづくりに向けた努力を記録し評価するとともに、国内外への活発な普及に努めることに合意します。

日本国 鹿児島市
2021年1月25日

下鶴 隆央
鹿児島市 市長

グールドブランド シェーンボリ 認証審査員(正)
国際セーフコミュニティ認証センター
ジェネラルマネジャー

川越 桂路
鹿児島市議会 議長

デイル ハンソン 認証審査員(副)
国際セーフコミュニティ認証センター センター長
国際セーフコミュニティネットワーク 理事長

橋口 孝志
吉田南幼稚園 園長
(子どもの安全対策委員会 委員)

チョ ジュンピル 認証審査員(副)
亜州大学 地域安全向上センター センター長
(韓国セーフコミュニティ支援センター)
国際セーフコミュニティネットワーク 副理事長

鈴木 敏夫
鹿児島県警察 本部長

白石 陽子
日本セーフコミュニティ推進機構 代表理事
(日本セーフコミュニティ支援センター)
国際セーフコミュニティネットワーク 理事



鹿児島市 セーフコミュニティ 国際認証再取得



2021年1月25日(月)

鹿児島市では、これまで、世界基準の安心安全なまちづくりを進めるため、WHO(世界保健機関)が推奨するセーフコミュニティ活動に取り組んできました。

2016年の国際認証の初取得以降も、市民の皆様と共に、取組の評価・検証を積み重ねながら、より効果的な取組を全市域に展開し、地域の安全性の向上を図ってまいりました。

そして、この度、2020年秋の再認証審査を経て、認証が有効となる「合意書署名式」を執り行い、国際認証を再取得しました。

認証報告 ～再認証「合意書署名式」(2021年1月25日)より

日本セーフコミュニティ推進機構代表理事
白石 陽子

鹿児島市は、先の再認証審査において、これまでの取組や成果が高い評価を受け、再認証の内定を得られました。

国際認証の効力を発する合意書(※)への署名は、セーフコミュニティの取組を通して鹿児島市の安心安全なまちづくりに携わっておられる市民、行政、関係機関・団体の皆様と、国際セーフコミュニティ認証センターの双方が、さらなる安心安全なまちづくりに向け、セーフコミュニティ活動の継続と普及に共に取り組んでいくことを約束するものです。

ここに今、関係者代表のご署名が揃い、鹿児島市がセーフコミュニティとして改めて認証されましたことをご報告いたします。

鹿児島市の皆様、国際認証の再取得、おめでとうございます。

(※)裏表紙に合意書の日本語訳を掲載しています

●セーフコミュニティ国際認証再取得までの歩み

平成 24 年度	1 月	市長による認証取得の取組宣言
平成 25 年度	5 ~ 8 月	7つの分野別対策委員会を設置 (交通安全、学校の安全、子どもの安全、高齢者の安全、 DV防止、自殺予防、防災・災害対策)
	6 月	鹿児島県警察本部がセーフコミュニティ支援推進委員会を設置
平成 26 年度	10 月	事前指導を実施
平成 27 年度	7 月	認証申請書を提出
	9 ~ 10 月	現地審査を実施
	1 月	認証取得
令和元年度	10 月	再認証事前指導を実施
令和 2 年度	9 月	認証申請書を提出
	11 月	再認証審査を実施
	1 月	再認証取得

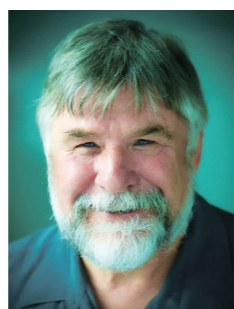
●再認証審査 審査員等プロフィール



グールドブランド
シェーンボリ 氏

- ・国際セーフコミュニティ
認証センター ジェネラルマネジャー
- ・セーフコミュニティ 公式認証審査員

長年の行政へのコンサルタント、都市計画における経験をもとに、セーフコミュニティの総括者であるジェネラルマネジャーとして、セーフコミュニティの進め方についてアドバイスを行っている。
近年増加しているアジアからの認証審査を数多く担当し、国の多様性をセーフコミュニティの取組に反映させるよう尽力している。



デイル
ハンソン 氏
(公衆衛生博士)

- ・国際セーフコミュニティ
認証センター センター長
- ・国際セーフコミュニティ
ネットワーク 理事長
- ・セーフコミュニティ 公式認証審査員

重症外傷、早期診療、小児救命など多様な分野における研究をバックグラウンドに、外傷予防及び安全向上に関心を持ち、オーストラリアセーフコミュニティ財団の発起人の一人としてセーフコミュニティに関わってきた。
現在は国際セーフコミュニティ認証センター長として多くのコミュニティの認証審査員を務めている。



チョ
ジュンピル 氏
(医学博士)

- ・亜州大学 地域安全向上センター
センター長
- ・国際セーフコミュニティネットワーク
副理事長
- ・セーフコミュニティ 公式認証審査員

韓国延世大学医学部卒業。亜州大学医学部で救急医療を担当しているなかで、傷害によって救急搬送される患者が後を絶たないことから傷害予防の必要性を実感する。
その後、アメリカ滞在中にセーフコミュニティの概念に出会い、韓国にセーフコミュニティを導入した。現在、韓国国内で約 20 の自治体の支援を行っており、これまで約 50 のコミュニティをセーフコミュニティ認証に導いてきた。



白石 陽子 氏
(政策科学博士)

- ・日本セーフコミュニティ推進機構
代表理事
- ・国際セーフコミュニティネットワーク
理事
- ・セーフコミュニティ 公式認証審査員

立命館大学大学院政策科学研究科博士課程在学中にセーフコミュニティの発祥地であるスウェーデンのカロリンスカ研究所(医科大学)でセーフコミュニティを学ぶ。代表を務める日本セーフコミュニティ推進機構は、日本セーフコミュニティ支援センター及び国際ナショナルセーフスクールの認証センターとして認定されている。
鹿児島市のセーフコミュニティ活動を取組当初から支援。

審査員メッセージ(要旨) ~ 再認証「合意書署名式」(2021年1月25日)より



国際セーフコミュニティ認証センター
ジェネラルマネジャー
グールドブランド・シェーンボリ

鹿児島市の皆さん、国際認証の再取得、おめでとうございます。

皆様の輝かしい記念の日に、お祝いに駆けつけることが叶いませんので、認証審査を担当した審査員を代表し、メッセージをお送りします。

今回の審査を通して、私たち審査員は、鹿児島市が事故やけがの予防に関して、体系的で継続的なまちづくりを展開しているということを強く感じました。

鹿児島市では、市民の皆さんそれぞれが主体となった協働によるまちづくりを進められており、安全に関する取組が、各々の明確な役割分担のもと、実践されています。

また、包括的に事故やけがの発生動向を把握する仕組みが構築されており、これにより、安全上の問題や優先的に取り組むべき課題が明確にされるとともに、安全に関する取組の成果を評価することが可能になっています。

外傷には、発生動向の把握が難しい家庭内の暴力や虐待など、いわゆる「隠れたけが」が存在しますが、鹿児島市では、それらについても、セーフコミュニティ活動による予防に取り組まれています。

鹿児島市のような大規模なコミュニティにおいて、セーフコミュニティの取組を導入し、全市域に展開をした事例には、多くの学ぶべき点があります。

鹿児島市では、一つ一つの分野にセーフコミュニティの仕組みを着実に取り入れ、そして、モデル地区の取組を、住民の皆さんが一緒になって地域レベルで導入してきたことにより、活動は全市域へと広がってきました。

世界に目を向けると、多くの都市がセーフコミュニティのような取組を必要としています。

鹿児島市における推進のノウハウは、いわば「鹿児島モデル」として、大都市化が進む地域にとって素晴らしいモデルとなるでしょう。

また、鹿児島市では、地域の安全向上のためのボトムアップ、つまり「地域の安全なまちづくりへの関わり方」、「地域力」の向上に資する優れた事例といえる、先進的な取組を行っています。

具体的には、安心・安全に関するガイドブックの全戸配布や、火山噴火へのしっかりとした備え、そして「隠れたけが」、特に家庭内での暴力や虐待に対しても積極的に取り組んでいる点が挙げられます。

皆さんが、安全向上のため懸命に取組を重ねてこられたことに対し、感謝を申し上げますとともに、この度、鹿児島市がこの5年間の取組の実績を認められ、改めて認証されることを嬉しく思います。